

# **（一社）全国配置薬協議会第12回定時社員総会**

## **会長 大北正人氏（代行より昇格）、塩井保彦氏は役員退く**

## **製薬部会長 佐藤 進氏（新任）、配置部会長 河上宗勝氏（留任）**

### **（一社）日本置き薬協会**

（一社）全国配置薬協会（大北正人会長代行）の「第12回定時社員総会」は7月14日午後3時から東京都文京区湯島のホテルガーデンパレスで開かれ、任期満了の伴う役員改選で、大北正人会長代行（滋賀県、日新製薬工業㈱社長）を正式に新たな会長に選任した。新たな製薬部会長には佐藤進氏（奈良県、佐藤薬品工業㈱会長）が就いた。配置部会長は河上宗勝氏が留任した。大北会長就任挨拶は以下の通り。

○全配協を力強く牽引していきたい。世界には196か国あるが、医薬品販売で配置販売があるのは日本だけだ。非常に貴重なビジネスモデルだ。他業種においても配置販売のような日本にしかないビジネスモデルを探したが、私の調べた限りでは見つからなかった。何としても後世に繋げていきたい。○製造業者と販売業者の団体がひとつで活動している全配協という業界組織も日本で唯一の団体だ。この強みを最大限に生かしたい。○現在の製薬部会と配置部会による全配協組織は35年前の昭和63年に設立された。最初に提唱したのは私の祖父である大北正史だったと聞いている。配置販売業界は今すごいピンチだ。だがピンチであればあるほどすごいチャンスでもある。これまで通りではピンチのままに終わる。配置薬販売業をさらに後世につたえるべく誠心誠意努めたい。

総会后、本田顕子参議院議員（厚労大臣政務官、配置薬議員連盟議員、薬剤師）が「医薬品販売制度をめぐる最近の薬事行政について」と題して「記念講演会」に登壇。

「配置薬業界の役割と期待」に関して、行政・医療関係団体等との連携や地域包括への参画のほか、「役割」として、1. 国民のセルフケアへのサポート、2. セルフメディケーションに資する配置薬の安定供給、3. 一般用医薬品の乱用防止と適正使用への関与など。「期待」として、1. 健康づくりに関する啓発活動、2. 配置薬の品質確保、需要に即した生産、範囲拡大、3. 配置販売の特長を生かしたきめ細やか顧客対応、などを挙げた。

記念講演会に続く「交流会」には、橘慶一郎配置薬議員連盟事務局長（衆議院富山県第3区）、本田顕子参議院議員（全国比例）、神谷政幸参議院議員（全国比例、配置薬議員連盟、薬剤師）、厚労省医薬・生活衛生局衣笠秀一総務課長、（公社）日本薬剤師会山本信夫会長が参列し祝辞を述べた。また厚労省医政局医薬産業振興・医療情報企画課長の安藤公一氏の祝辞を阿部雅信同推進室課長補佐が代読。

この他、厚労省医政局医療産業振興・医療情報企画課の山本和之企画情報係長、厚労省医薬・生活衛生局総務課の津田俊平薬事専門官、富山県厚生部くすり振興課の石田美樹課長、薬事指導課の岩瀬怜課長、奈良県福祉医療部医療政策局薬務課の芳賀照美課長、滋賀県健康医療福祉部薬務課の辻朋子課長らが出席した。

薬日新聞 令和5年7月17日号より転載

## **配置薬の日はハ、イチの8月1日 各地の配置協会が献血活動実施**

全配協は令和元年に配置薬の広報活動と認知度向上を掲げ8月1日を「配置薬の日」に制定し、8月1日を前後に各地の配置協会が献血活動を実施している。

7月14日 兵庫、24日 京都、29日 山梨、福井、30日 福島、群馬、東京、神奈川、長野、奈良、和歌山、島根、山口、福岡、8月1日 静岡、5日 富山、6日 石川、愛知、15日 滋賀、26日 愛媛

因みに筆者は8月3日に70歳を迎え2日に生涯最後となる304回目の献血を行った。